

自分の感情をコントロールできずに怒りを暴発させ、「キレて」しまつ子どもが増えている。キレない子どもをどう育てるか。相手に自分の気持ちを伝え、問題を解決する力を育てる、米国生まれの「セカンドステップ」というプログラムが国内の幼稚園や保育園、小学校などで広がっている。都内の実践現場を訪ねた。

(東京報道部・塚崎謙太郎)

感情を伝え 問題対処法学ぶ

米国生まれのプログラム 「セカンドステップ」

一つだけではないことを、子ども自身を考えてもらうのが狙いだ。次に、それぞれの意見を実行した場合、①安全か②どんな気持ちか③フェア(公正)か④うまくいきそうか⑤の四点について

に身に着くこともかもしれないけれど、対処法を学んでおけば、いつか役立つかもしれないから。被害者にも加害者にもなつてほしくないから」と受講の動機を話す。ほかの保護者からは

東京都世田谷区の静かな住宅街にある代田幼稚園で、年中、年長の幼児を対象にした週一回のレッスンが始まった。ふだんは十組程度の親子が参加するが、風邪の流行でこの日は三組だった。

講師の先生が掲げた一枚の写真には、砂場で遊ぶ二人の子どもと、少し離れた場所から二人を見つめる子ども(ルイスくん)が写っている。

「ああ、ルイスくんは何ができるかな?」。問いかけられた子どもたちが「仲間に入れてっていう」「だまって帰る」「砂をかける」「一緒にあそぼって」と意見を出し、先生や母親

「キレない子」育てるには…

も「二人のそばで遊ぶ」などの意見を追加し、ホワイトボードには八つの意見が並んだ。

意見に対して、先生は批評や評価を一切しない。質より量を優先し、問題の解決法を積み上げ、解決法が

「○・△・×」で検討する。約三分のレッスンはここまで。次回ほどの解決策を選ぶかを、みんなで考える。

年間二十八回のレッスンを通して、コミュニケーションの力を育てていく。長男と通つ母親は「自然



出合った意見を実行したところなるかを、○や△で答える子どもたち

東京・世田谷の幼稚園

導入拡大 全国に200カ所

「自分を押し通すばかりでなく、引くことも覚えた」「親子で顔を見て話す時間が増えた」という声も寄せられており、子どもだけでなく、親も一緒に「コミュニケーション」を学ぶ場となっている。

□ □

セカンドステップは約二十年前、米国・シアトルで開発され、世界十七カ国で使われている。子供が暴力の加害者にならないため、他者との関係を円滑に進める四一八歳向けのプログラムだ。日本では二〇〇一年に設立されたNPO法人

「日本こどものための委員会」(東京)が指導員の研修を実施している。現在、千七百五十人の指導者が全国約二百カ所で実践しており、児童養護施設での導入例も増えている。翻訳された教材には、さまざまな国の子どもが登場する。

大きな特徴は「たたいちやだめ」と何かを禁止する

しつこくはなく、怒りや悔しざという感情を認めた上で、数を数えたり深呼吸したりして気持ちを落ち着けて、自分の気持ちを相手に伝えるという具体的手法を学ばせる点だ。受講者と未受講者を比べたところ、受講した子どもの攻撃性が減少したという科学的データも得られている。

そこで東京都品川区教委は、全国で初めて小学校のカリキュラムにセカンドステップを本格導入した。現在は三十校、来年度から区内全三十八校で実施する。第四日野小で一年生を教える橋本日教諭(三)は「年齢とともに身に着ればいいスキルだけど、通り過ぎてしまつ子もいるはず。算数の公式みたいなもので、内面に意識付けしていれば、いつか役立つときがある」と話す。実際に、子どもが相手に気持ちを伝え、順番を守ることでトラブルを解決する姿も生まれているという。

セカンドステップの教材を翻訳した同NPOの渡辺紀久子理事は「これが特効薬といふことではないけれど、続けることで少しずつ変わっていく子どもの姿を見られました。もっと広がっていきなさい」と話している。

▽日本こどものための委員会(03(55333)9) 1461、ホームページはhttp://www.cfc-j.org

暮らし
分度器